

報告論文のタイトル：リスクに対する態度と震災に関連した行動

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名：森 大輔

所属：熊本大学法学部

共著者 1 氏名：

所属：

共著者 2 氏名：

所属：

論文要旨（800 字から 1200 字，英文の場合は 300 から 450 語）

本報告は、リスクに対する人々の態度と、それが震災に関連する行動や態度に与える影響を、社会調査によって分析しようとするものである。リスクに対する人々の態度については、リスク選好などの形で、経済学ではかねてから関心もたれてきた。また、心理学等の分野でも、リスクに対する態度については、様々な知見が蓄積されてきている。

そして、震災後に見られた人々の様々な行動は、そのようなリスクに対する人々の反応の大きさが現れたものという側面があると見るができる。例えば、震災後の食料等を買いだめした人は、もし自分の住んでいるところにも同じような大地震が来たらといったリスクを考え、それを恐れてそれに備えようとしたという、リスクに大きく反応した行動をとったということができよう。逆に、一部地域の商品の買い控えをした人は、もしそうした商品を使用して、病気などになったらといったリスクを考え、それを恐れて買うことをやめたという、リスクに大きく反応した行動をとったということができよう。

本報告では、具体的なデータとして、(社)中央調査社に委託して、2013 年 2 月 8 日～2 月 12 日に実施した「情報と災害についてのアンケート調査」（調査計画者：森大輔 熊本大学准教授、太田勝造 東京大学教授、飯田高 成蹊大学准教授）のデータを用いる。この調査は、中央調査社のモニターの中から抽出された 3600 人に対してインターネットを介して行われたアンケート調査である（なお、本調査は特別推進研究「経済危機と社会インフラの複雑系分析」（平成 23 年～27 年）の支援を受けた）。

このデータを分析するにあたって、まず、「宝くじに当たって大金が入った時に、それをローリスク・ローリターン資産やハイリスク・ハイリターン資産にどれぐらい振り分けるか」といった質問や、「私は、ホテルや旅館に宿泊するとき、避難口を確認する」「私は、宝くじを買いたいと思うことがある」といったリスクに関する心理測定尺度などを用いることによって、人々を、リスクに大きく反応する人としらない人に分類することを考える。そして、それと震災後の買いだめ・買い控えに関する質問、原子力発電所に関する質問、科学技術に関する質問との間の関係などについて、統計分析を試み、**リスクに対する人々の態度が震災に関連する行動や態度に与える影響を見出すことを目指す。**